

埼玉県川越市教育委員会

【総人口】352,487 人

【自治体 関連URL】 <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/index.html>

【主担当部局】 川越市教育委員会教育指導課
(公立小学校担当)

【主な関係部局】 川越市市長部局保育課
(保育所・認定こども園担当)

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	0	0		2 0	4 1	0	1 0	0	3 2	1
園児・ 児童数	0	0	4,837	1,511	3,037	0	583	0	16,885	

事業実施地域・ 協力園校	【実施地域】 川越市
	【協力園校】 幼：私立幼稚園2園、私立保育所1園、市立保育園1園 小：公立小学校4校

架け橋期の カリキュラム開発 会議	【会議委員人数】 10名	【開催数】 4回
	【委員属性】 私立幼稚園副園長1名、市立保育園長1名、公立小学校長1名、大学教授1名、大学副学長1名 事務局（教育指導課 課長、副課長、副主幹・保育課主査）	

幼保小連携 アドバイザー	【配置人数】 1名
	【経歴】 ・大学教授

架け橋期の カリキュラム	【開発主体】
	① 私立幼稚園、市立小学校
	② 私立幼稚園、市立小学校
	③ 私立保育園、市立小学校
	④ 市立保育園、市立小学校

カリキュラム開発会議

1 架け橋期のカリキュラム会議内容

- (1) 第1回開発会議及び幼保小連携会議主旨説明会 5月10日（水）13:30～16:30
 - ・カリキュラム作成の進捗状況報告（第1回幼保小連携会議内容報告）
 - ・講師を招聘し、架け橋期カリキュラムについての共通理解を図る。
 - ・講演 白梅学園大学名誉教授 無藤 隆 先生
 - ・本年度の研究の方向性（指定校における3回の会議を経て架け橋期カリキュラムを作成）を確認
- (2) 第2回開発会議及び令和4年度川越市幼保小連携モデル指定研究成果発表会 10月13日（金）13:30～16:30
 - ・カリキュラム作成の進捗状況報告（第2回幼保小連携会議内容報告）
 - ・来年度の研究内容について
 - ・モデル指定園より研究成果報告発表（効果検証を含む）
- (3) 第3回開発会議 12月13日（水）15:00～16:30
 - ・カリキュラム作成の進捗状況報告（第3回幼保小連携会議内容報告）
 - ・今後の幼保小連携の在り方について
 - ・令和6年度研修計画について
- (4) 第4回開発会議及び令和4・5年度川越市幼保小連携モデル指定研究成果発表会 2月6日（火）13:30～16:30
 - ・令和6年度研究計画及び研究の方向性決定
 - ・モデル指定園・指定校より幼保小連携会議内容発表



川越市マスコットキャラクター ときも

2 架け橋期のカリキュラム方針

- ・現在ある園のアプローチカリキュラム、小学校のスタートカリキュラムを基盤として、川越市幼保小架け橋期カリキュラム共通の視点を基に話し合いを行う。
- ・教育課程や指導計画等を具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定する。
- ・進学する先の小学校にて、複数の幼稚園・認定こども園・保育園が集まり、主体的・対話的で深い学びの実現のために、よりよい接続のためのカリキュラムの在り方を見直していく。
- ・実質的な話し合いや実践を重視し、架け橋期カリキュラム作成がゴールではなく、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。

3 会議設置による成果と課題

- (1) 成果
 - ・開発委員が分担をして、4園・校における幼保小連携会議に出席をし、指導助言を行うことで、円滑に会議を進めることができた。
 - ・4園・校における幼保小連携会議内容を開発会議で共有していくことで、各園・校のカリキュラム開発の進捗状況を確認しながら、開発を進めることができた。
- (2) 課題
 - ・本年度は、川越市幼保小連携モデル指定園・校に開発委員が出向き、幼保小連携会議を開催する中で、架け橋期のカリキュラムを作成することができた。しかし、全園・校の幼保小連携会議に開発委員が出席をしていくことは不可能なため、持続可能な会議の在り方を考えていく必要がある。

架け橋期のカリキュラム

1 開発プロセス

(1) 幼保小連携会議マニュアル

・モデル指定園・校にて、幼保小連携会議マニュアルを基に、年3回の幼保小連携会議を実施し作成

川越市架け橋期カリキュラム共通の視点

共通の視点	幼稚園・認定こども園・保育園	小学校
1. 幼児教育と小学校教育の連続性	幼稚園・認定こども園・保育園で培った基礎的な学力や態度を小学校で発展させる。	小学校で培った学力や態度を幼稚園・認定こども園・保育園で定着させる。
2. 幼児教育と小学校教育の連携	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携して、子どもの成長を支える。
3. 幼児教育と小学校教育の協働	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が協働して、子どもの成長を支える。
4. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
5. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
6. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
7. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
8. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
9. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。
10. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。	小学校と幼稚園・認定こども園・保育園が連携・協働して、子どもの成長を支える。

【架け橋期カリキュラム共通の視点】

架け橋期カリキュラム作成の手引き（〇〇幼稚園・保育園・認定こども園/〇〇小学校）

作成の手引き	作成の手引き
1. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
2. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
3. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
4. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
5. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
6. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
7. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
8. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
9. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
10. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。

【架け橋期カリキュラム作成の手引き】

架け橋期カリキュラム作成例（〇〇幼稚園・保育園・認定こども園/〇〇小学校）

作成の手引き	作成の手引き
1. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
2. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
3. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
4. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
5. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
6. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
7. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
8. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
9. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。
10. 幼児教育と小学校教育の連携・協働の推進	幼稚園・認定こども園・保育園と小学校が連携・協働して、子どもの成長を支える。

【架け橋期カリキュラム作成例】

(2) 幼保小連携会議内容

① 第1回

- ・小学校1年生の現在の状況
- ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供
- ・指定園の効果検証について確認
- ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。

② 第2回

- ・小学校1年生の現在の状況
- ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供
- ・効果検証について小学校より園へフィードバック
- ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。

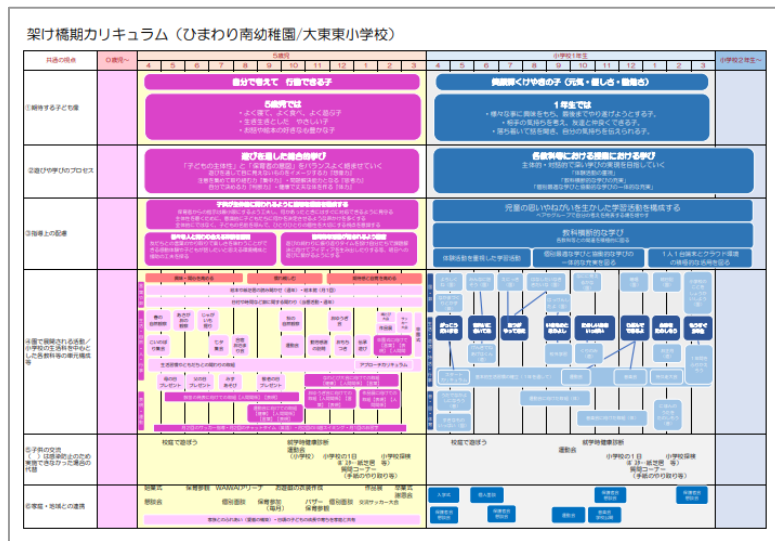
③ 第3回

- ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を各園・校で共有し、さらによりよくするように検討する。
- ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。
- ・子供たちの交流の細案を立てる。

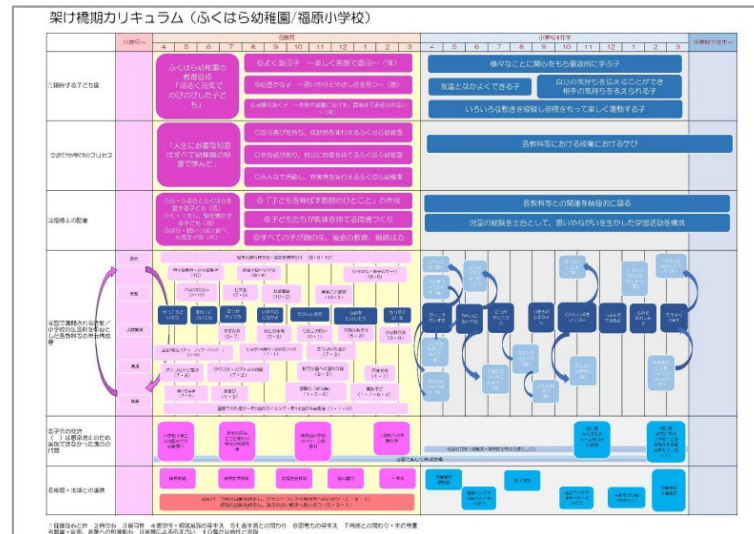
架け橋期のカリキュラム

2 架け橋期カリキュラム概要

(1) 私立幼稚園・市立小学校

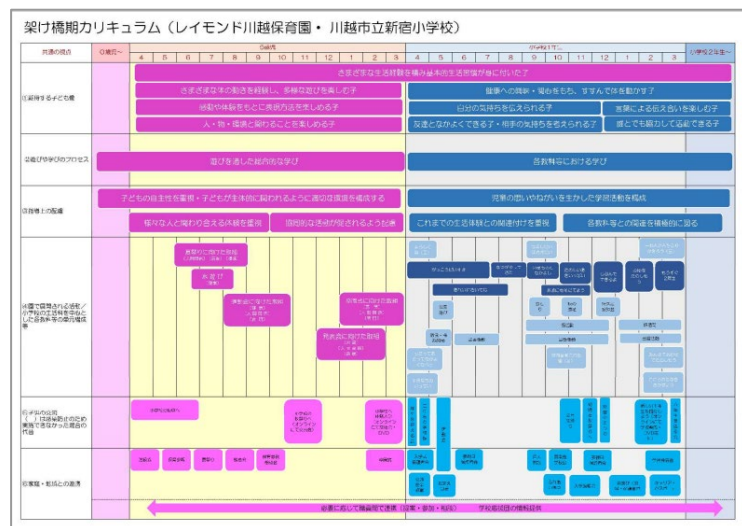


(2) 私立幼稚園・市立小学校

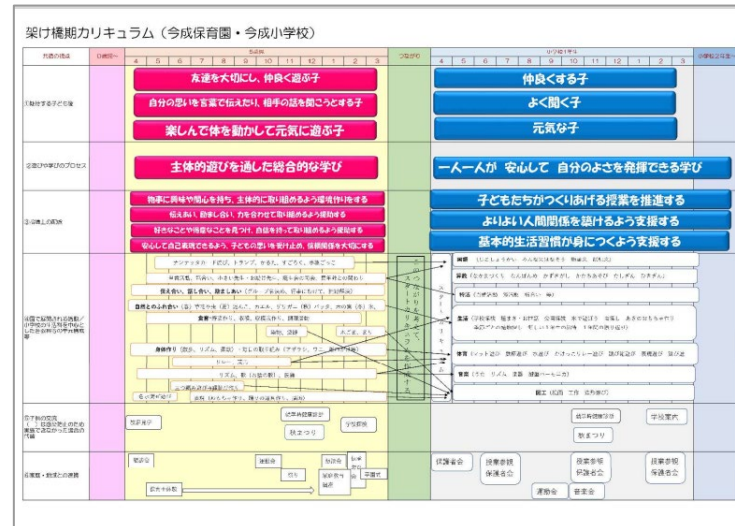


それぞれの園・校が現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム基に、接続を見据え工夫をしてカリキュラムを作成しました！

(3) 私立保育園・市立小学校



(4) 市立保育園・市立小学校



川越市マスコットキャラクター ときも

次年度への展望

1 調査研究の成果

（１）幼児期及び児童期における発達の理解の共有

- ・幼保小架け橋期カリキュラム作成の基盤となる「川越市ときも学びのプロセス」を作成し、全園・全校に配布し、共通理解を図ることができた。裏面については、幼児期の教育・保育が小学校へどのようにつながっていくかを、分かりやすく図に示すよう改訂を行った。
- ・「川越市ときも学びのプロセス」家庭版を作成し、全園の年長児に配布し、幼児期に大切にしたい事項について、保護者への理解を得るようにした。

【右下資料】

- ・幼稚園・保育園・認定こども園及び小学校の教諭・保育者が、子どものよりよい成長を考える研修会にて「川越市ときも学びのプロセス」を基に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有を踏まえた連携の在り方についてグループ協議を行うことができた。
- ・幼保小連絡懇談会を市内６地区に分かれて実施し、川越市ときも学びのプロセスの「健康な生活」を視点とし「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を手掛かりとした資質・能力の育成」の研究主題の基、話し合うことができた。

（２）幼保小連携モデル指定園・指定校での研究の推進

① 令和４年度における効果検証

i 私立幼稚園

- ・学びに向かう力の育成と、バランス感覚の育成が、小学校での取組に一定の有効性があった。遊びを通して育んだバランス感覚については進学後も一定の効果が持続している。

ii 私立幼稚園

- ・園での取組の成果を、事前に小学校へ周知することで、小学校側が園の実態を基に指導することができた。

iii 私立保育園

- ・園での成果を小学校で発揮することができなかったという結果を知ることができ、今後の園での保育を見直していくよいきっかけとなった。

IV 市立保育園

- ・園での主体的な行動の育成が、小学校入学後に子供たちが力を発揮することにつながることを確認できた。

② 令和５年度における研究

- ・年３回の幼保小連携会議を通して、川越市幼保小連携会議マニュアルを基に、それぞれの施設類型の架け橋期カリキュラムを作成することができた。
- ・架け橋期カリキュラムを作成していく過程で、お互いが大切にしていることを理解し、育てていきたい子供像を明確にすることができた。また、気軽に相談できる関係を構築することができた。



2 今後の課題及び展望

- ・本年度４園・校で作成した架け橋期カリキュラムを基に、川越市架け橋期カリキュラムを開発 委員会で作成し、周知していく。
- ・川越市幼保小連携モデル指定研究は、指定された園・校での負担感が多くあった。持続可能な幼保小の連携となるよう、連携の在り方について考えていく必要がある。
- ・小中連携と違い、連携園が小学校に多くまたがることから、幼保小連携会議の持ち方について整理し、全市的な取組について提案していく。